

誤飲・誤嚥を

防ぎましょう!

球形のものは、このマルのサイズ(4.5cm)より小さいと誤飲・誤嚥の原因となります。

食事編

年齢月齢によらず、普段食べているどんな食材も窒息につながる可能性があります。適切な食事の援助や観察をしっかりとしましょう。

子どもの食事に関する情報や当日の子どもの健康状況等、職員間で共有しましょう。保護者から聞き取った内容も大切です。

- ・咀嚼したり飲み込んだりといった食行動の発達状況と食事内容はありますか？
- ・子ども同士で競争したり口いっぱいにつめこんでいないか確認しましょう。
- ・せかして食べさせたりせず、子どもたちが自発的に口にいれ、飲み込むのを待ちましょう。

パンやマシュマロも要注意!



環境設定編 おもちゃ、小物、施設内で育てている植物など

口に入れると咽頭部や気管が詰まり窒息の可能性がある大きさ、形状*のものは室内に置かないようにしましょう。

*球形の場合は直径4.5cm以下のもの
球形でないものは直径3.8cm以下のもの

トマトなど、施設で植物を育てていませんか？

手に触れないよう気を付けていても、実や花が落下し、子どもたちが口に入れ、窒息を招いた事故が、トマト以外の植物でも起きています。また、「節分の豆まきの豆」「掲示物をとめるためのマグネット」「児童の髪飾りの部品」など、普段使う何気ない物品にも改めて目を向け、保育の内容・環境を見直してみましょう。

プチトマトはもちろん、通常のトマトも完熟する前は誤飲等が起きるサイズです。

マグネットは丸い形状のものではなく、シートタイプのマグネットを長めの短冊状に切って利用するなどの工夫ができます!



窒息が発生したときの対応 ～施設で定期的に研修を行いましょう～

実際に窒息が発生した時は、速やかな対応が求められます。

大きな声で人を呼び、119番に連絡、AEDの手配、保護者への連絡を依頼します。

- ・意識があり、呼吸が苦しそうな場合
状況によって対応方法が異なります。施設で対応方法を学びましょう。
- ・意識がなく、呼吸がない場合
心肺蘇生法を行う必要があります。心肺蘇生、AEDの利用の方法について学びましょう。

より詳しい予防策・対応については内閣府のガイドラインを参照してください。

「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」



横浜市こども青少年局